

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-309370

(43) 公開日 平成9年(1997)12月2日

(51) Int. Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 0 N 3/10			B 6 0 N 3/10	A

審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願平8-150463
(22) 出願日	平成8年(1996)5月23日

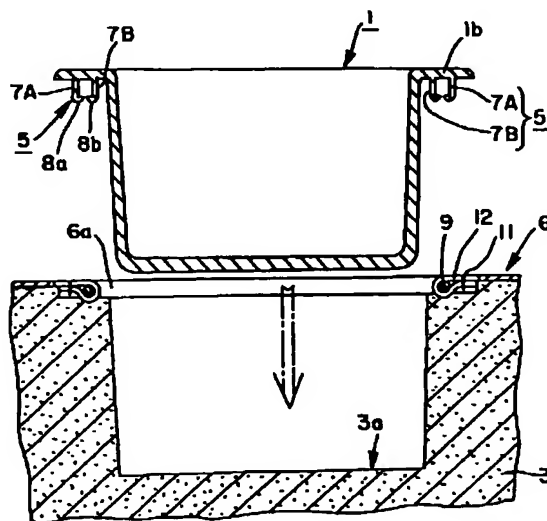
(71) 出願人	000210089
	池田物産株式会社
	神奈川県綾瀬市小園771番地
(72) 発明者	岩田 英親
	神奈川県綾瀬市小園771番地 池田物産株
	式会社内
(74) 代理人	弁理士 山本 秀樹

(54) 【発明の名称】 シートにおける容器状部材の取付構造

(57) 【要約】

【課題】 簡単な構造で表皮材の開口周縁部の不用意なはみ出しを構造的に防ぎ、また部品間の寸法バラツキも生じ難く、外観をより向上できるようにしたシートにおける容器状部材の取付構造を提供する。

【解決手段】 緩衝用パッド3に凹所3aを形成すると共に、表皮材6に開口部6aを形成しており、容器状部材1が開口部6aから凹所3a内に押し入れられた状態で係止されるシートにおける容器状部材の取付構造において、表皮材6は、開口部6aの縁部に沿って袋状部10を設け、袋状部内に挿通配置されたトリムワイヤ9を有すると共に、袋状部10の一部に切欠部12を設けそこからトリムワイヤ9の対応部分を露出している一方、容器状部材1は、その外周面に突設された引っ掛片部5を有し、凹所3a内に押し入れられることにより、引っ掛片部5がトリムワイヤ9の対応部分に係止可能になるようにした。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 シート側に容器状部材を取り付ける場合、シート側の緩衝用パッドに凹所を形成すると共に、前記凹所に対応して前記パッドを被覆する表皮材に開口部を形成しており、容器状部材が前記開口部から前記凹所内に押し入れられた状態で係止されるシートにおける容器状部材の取付構造において、

前記表皮材は、前記開口部の縁部に沿って袋状部を設け、該袋状部内に挿通配置されたトリムワイヤを有すると共に、前記袋状部の一部に切欠部を設けこの切欠部を通して前記トリムワイヤの対応部分を露出している一方、

前記容器状部材は、その外周面に突設された引っ掛片部を有し、前記凹所内に押し入れられることにより、該引っ掛片部が前記切欠部から露出している前記トリムワイヤの対応部分に係止可能になることを特徴とするシートにおける容器状部材の取付構造。

【請求項2】 引っ掛片部が、前記容器状部材の開口縁部に設けられた鈎状フランジ部の下面に設けられている請求項1に記載のシートにおける容器状部材の取付構造。

【請求項3】 前記引っ掛片部が、所定間隔を保って突設された二個を単位として設けられ、かつ、互いの先端に爪部を対向して各々形成している請求項2に記載のシートにおける容器状部材の取付構造。

【発明の詳細な説明】

【0.0.0.1】

【発明の属する技術分野】本発明は、カップホルダー等の容器状部材をシート各部に取り付ける場合に好適な容器状部材の取付構造に関するものである。

【0002】

【従来の技術】自動車等に装備されるシートには、例えば、固定ないしは可動状態に設けられるアームレスト部やシートバック部の背面側にカップホルダー、灰皿、小物入れなどの容器状部材が取り付けられることが多い。図5から図7はその一例として、シートのアームレスト部に設けられたカップホルダーの取付構造を示している。図5はその外観斜視図、図6は図5のC-C線に沿って矢印方向に見た概略断面図、図7は要部の分解斜視図である。アームレスト部50は、緩衝用パッド51に凹所51aを形成していると共に、パッド51を被覆する表皮材52に凹所51aに対応して開口部52aを形成している。また、凹所51aには取付ブラケット53がフレーム54側に固定されている。

【0003】カップホルダー55にあって、前後の外周面には左右に分かれて係合爪55aが対に設けられていると共に、開口縁には鈎状フランジ部55bが一体に設けられている。取付ブラケット53は、カップホルダー55を受け入れ可能な矩形状の取付開口53aを中央に有している。この取付開口53aは、カップホルダー5

5を落とし込んで行くと最終位置で、フランジ部55bが取付ブラケット53の上面にぶつかってそれ以上の落とし込みができない設定になっている。また、カップホルダー55の係合爪55aが形成されている側には、取付開口53aの縁より下側に向かって突出した垂直片56が形成されており、垂直片56の先端に係止部56aに設定されている。

【0004】そして、カップホルダー55を取り付ける場合は、開口部52aを介して凹所51a内に押し込める。すると、カップホルダー55は表皮材52の開口周縁を一部巻き込みながら、取付ブラケット53の取付開口53a内に差し込まれて行く。また、途中まで差し込まれると、係合爪55aが取付開口53aの内面に当接するが、強く押圧すると、係合爪55aが内側に弾性変形を伴って突出量を減じて、さらに押し込むことができる。そして、係合爪55aが垂直片56の先端係止部56aを通過し終えると、係合爪55aが元の状態に弾性復帰し、先端係止部56aに抜け止められる。また、同時に、鈎状フランジ部55bが表皮材52の開口縁部に当接されて、それ以上の差し込みが規制される。これにより、カップホルダー55は、アームレスト部50に固定された状態に設置される。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】以上のような取付構造では次のような問題があった。まず、表皮材52の開口部52aの周縁部が取付ブラケット53とカップホルダー55との間に挟み込まれているだけであることからその周縁部の位置が安定せず、例えば、緩衝用パッド51の弾性変形に追随して鈎状フランジ部55bからはみ出す虞もある。また、表皮材52と取付ブラケット53の合計厚み量が、鈎状フランジ部55bの下面と係止部56aとの間の寸法よりも小さいと、表皮材52と鈎状フランジ部55bとの間に隙間が生じて見栄えを悪くする。逆に、表皮材52と取付ブラケット53の合計厚み量が、鈎状フランジ部55bの下面と係止部56aとの間の寸法よりも大きいと、表皮材52の開口周縁を必要以上に押し潰すことになるため、鈎状フランジ部55bの外側に位置する表皮材52の部分にしわや摺傷が形成されたり、鈎状フランジ部55bが表皮材52の表面平坦部よりも落ち込んで段差となって見栄えを悪くする。なお、従来は、このような相対的な誤差を吸収できるようにするため、表皮材52の裏面に比較的厚いウレタンパッドなどの裏打ち材57を貼着し、この裏打ち材57の弾性能を利用して寸法バラッキを吸収する構造を採用している。ところが、この裏打ち材57を取り付ける従来構造では、裏打ち材57を設けることによってコストが大きくなっていると言う問題もある。

【0006】本発明は、上記問題点に鑑みてなされたものであり、その目的は簡単な構造で表皮材の開口周縁部の不要なはみ出しを構造的に防ぎ、また部品間の寸法

3

バラツキも生じないようにして、外観を向上し、かつコスト低減も図られるようにしたシートにおける容器状部材の取付構造を提供することにある。他の目的は、以下に説明する内容の中で順次明らかにして行く。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明は、シート側に容器状部材を取り付ける場合、シート側の緩衝用パッドに凹所を形成すると共に、前記凹所に対応して前記パッドを被覆する表皮材に開口部を形成しており、容器状部材が前記開口部から前記凹所内に押し入れられた状態で係止されるシートにおける容器状部材の取付構造において、前記表皮材は、前記開口部の縁部に沿って袋状部を設け、該袋状部内に挿通配置されたトリムワイヤを有すると共に、前記袋状部の一部に切欠部を設けこの切欠部を通して前記トリムワイヤの対応部分を露出している一方、前記容器状部材は、その外周面に突設された引っ掛片部を有し、前記凹所内に押し入れられることにより、該引っ掛片部が前記切欠部から露出している前記トリムワイヤの対応部分に係止可能になることを要部としている。以上の本発明において、より具体的な態様としては、前記引っ掛片部が、前記容器状部材の開口縁部に設けられた鈎状フランジ部の下面に設けられている構成である。この場合、前記引っ掛片部は、所定間隔を保って突設された二個を単位として設けられ、かつ、互いの先端に爪部を対向して各々形成していることが好ましい。

【0.0.0.8】

【発明の実施の形態】図1乃至図4は本発明の形態例として、自動車におけるアームレスト部に設けられるカップホルダー（容器状部材例であり、灰皿や小物入れであってもよい）の取付構造を示している。図1は図3のA-A線に沿って矢印方向に見た要部の分解断面図、図2はその要部を示す外観斜視図、図3は取付状態での外観図、図4は図3のA-A線に沿って矢印方向に見た要部断面図である。

【0009】図1乃至図4において、アームレスト部2は、緩衝用パッド3にカップホルダー1に対応した大きさの凹所3aを形成していると共に、パッド3を被覆する表皮材6に凹所3aに対応した開口部6aを形成している点で従来と同じくしている。但し、表皮材6には従来の如くウレタンパッドなどの比較的厚い裏打ち材が設けられていない。

【0010】さらに要部を詳述する。カップホルダー1は樹脂成形体であり、上面開口した容器状に形成されている。開口周縁には鈎状フランジ部1bが全周に亘って一体に形成されている。このフランジ部1bには、前後片部の下面にあって、左右に引っ掛片部5が対に設けられ、また両側片部の下面にあって、各中間部にも引っ掛片部5が設けられている。これら各引っ掛片部5は、フランジ部1bに一体に形成されていて、所定間隔を保つ

4

て突出された二個を単位として設けられている。また、各単位を構成している引っ掛片7A、7Bは図2に示す如く互いの先端に対向して設けられた爪部8a、8bを有している。したがって、引っ掛片7A、7Bの間の間隔は爪部7a、7bの箇所において、狭くなっており、この爪部7a、7b間を弾性的に拡開して内部にトリムワイヤ9を挟持できるようになっている。

【0011】また、表皮材6にあって、開口部6aを形成している開口周縁部には袋状部10が形成されている。この袋状部10は開口縁部分を延長し、その延長部分10aを裏面側に折り返して糸11で縫製することによりトリムワイヤ9を挿通可能な大きさに形成したものである。なお、開口部6aないしは袋状部10の位置は凹所3a内に入り込まず、凹所3aの開口縁部上に保持される長さに設定されている。また、袋状部10には、一部を切断した切欠部12が設けられており、その切欠部12から内部に挿通配置されたトリムワイヤ9の対応部分を露出している。切欠部12は、引っ掛片部5を余裕を持って挿通可能な大きさをなし、カップホルダー1に設けられた引っ掛片部5に対応した部分にあって、対応した数だけ設けられている。

【0012】以下、カップホルダー1の取り付け要領を詳述する。カップホルダー1は、まず、開口部6aを通じて凹所3aの内部に押し込み配置される。この押し込み過程では、図1に示す如く各引っ掛片部5が対応する切欠部12と対向している。そして、引っ掛片部5はその先端が表皮材6の袋状部10に接するまで近づいた後、引っ掛片7A、7Bの間には切欠部12に位置するトリムワイヤ9の露出部分が入り込む。この際には、トリムワイヤ9の露出部分が爪部8a、8bの間に当たって、引っ掛片部5の下方への移動を阻止するよう抵抗を受けるが、この状態でさらに押されると、爪部8a、8bの間が引っ掛片7A、7Bの弾性により拡開して、トリムワイヤ9の露出部分の入り込みを許容する。そして、トリムワイヤ9の露出部分が爪部8a、8bの間から、引っ掛片7A、7Bの内側に入り込むと同時に、引っ掛片7A、7Bは元の状態に弾性復帰し、爪部8a、8bの間の間隔を狭める結果、内側に入り込んだトリムワイヤ9の露出部分を不用意に外れないよう拘束できるのである。

【0013】以上の形態例の取付構造を採用すると次のような利点がある。

①、カップホルダー1が取り付けられた状態では、表皮材6の開口縁部がトリムワイヤ9と引っ掛片部5との係合で一体化されているので、鈎状フランジ部1bからはみ出すということがなくなる。この係合は、トリムワイヤ9が袋状部10内に挿通配置されていること、引っ掛片部5を二個の爪部8a、8b付きの引っ掛片7A、7Bで構成し、引っ掛片7A、7Bの間にトリムワイヤ9の露出部分を挟み込んでいること、引っ掛片部5が鈎状

5

フランジ部1bの下面にあって、パッド3の上から下向きに突出されていることから、パッド3が弾性変形してもトリムワイヤ9との係合状態が維持される。したがって、弾性に富む箇所でも表皮材6の開口縁部のはみ出しを構造的に防止でき、外観品質を向上できる。

②、しかも、引っ掛片部5は鈎状フランジ部1bの下面に設けられ、かつ、そのフランジ部1bは引っ掛片部5と袋状部10のトリムワイヤ9とを介して結合し、常に一体化している。このため、アームレスト部2の内、特に、鈎状フランジ部1bに近い部分に局所的な外力が図4に示す矢印Y方向（下向き）へ加わった場合、その部分はパッド3の弾性圧縮に追従してへこむが、このとき表皮材6とフランジ部1bとの間に隙間を形成するのを防ぐ作用も有し、この点から使用時における外観も維持できる。

③、引っ掛片部5はカップホルダー1に一体に成形可能であり、また、袋状部10を形成し、そこにトリムワイヤ9を挿通配置するだけであることから、取付構造的に簡易である。また、従来の取付ブラケットを廃止できることから軽量化も図られ、しかも取付ブラケットをフレーム側に固定するというフレーム構造的な制約も受けない。

【0014】なお、上記各形態例では、アームレスト部2にカップホルダー1を取り付ける場合について説明したが、アームレスト部2以外のシート部位、例えばシートバック部の背面側等に取り付ける場合でも、同様にして適用できるものである。

【0015】

【発明の効果】以上説明したとおり、本発明によれば、容器状部材は、凹所内に押し込められる過程で、外周面に突設された引っ掛片部が切欠部からトリムワイヤの露出している対応部分に係止可能となりその係止状態にて取り付けられる。この取付状態では、表皮材の開口周縁

6

部が引っ掛片部により不動状態に係止されていることから、その不用意なはみ出しの虞がなくなり、また従来の如くしわや摺傷の発生などがなくなる。したがって、本発明は、簡単な構造でありながら、表皮材の開口周縁部の不用意なはみ出しを構造的に防止でき、従来の如く部品間の寸法バラツキを生じ難く、取り付けられた状態での外観をより向上でき、コスト低減も可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る容器状部材の取付構造を分解して示す断面図である。

【図2】前記取付構造の要部を示す概略斜視図である。

【図3】本発明を適用して取り付けられた容器状部材の外観図である。

【図4】図3のA-A線に沿って矢印方向に見た概略断面図である。

【図5】従来構造の一例を示す外観斜視図である。

【図6】図3のC-C線に沿って矢印方向に見た概略断面図である。

【図7】従来構造の要部分解斜視図である。

【符号の説明】

1 カップホルダー（容器状部材）

1b 鈎状フランジ部

2 アームレスト部（シート側）

3 パッド

3a 凹所

5 引っ掛片部

7A、7B 引っ掛片

8a、8b 爪部

6 表皮材

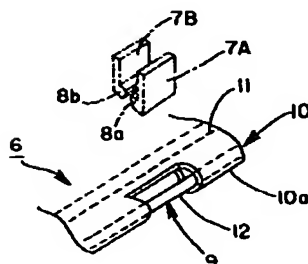
6a 開口部

9 トリムワイヤ

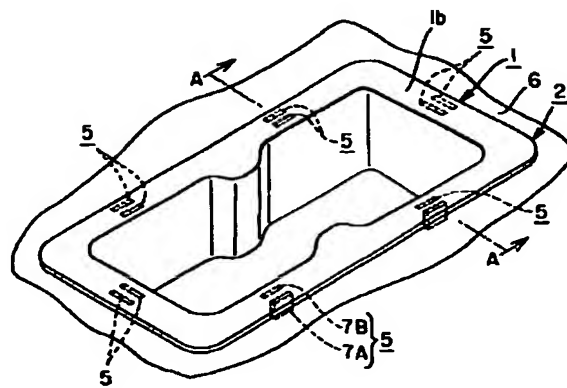
10 袋状部

12 切欠部

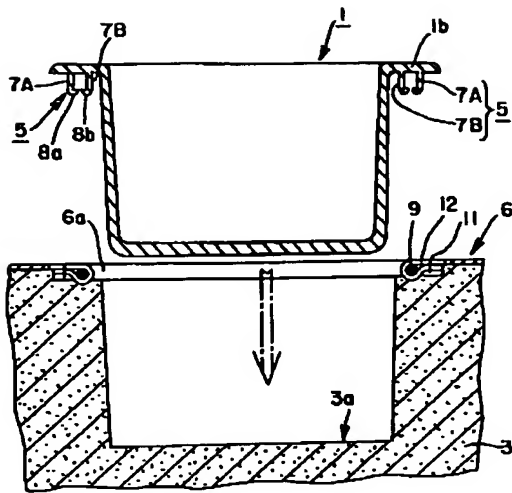
【図2】



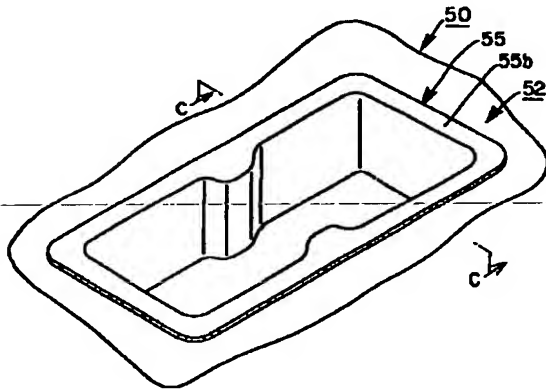
【図3】



【図1】

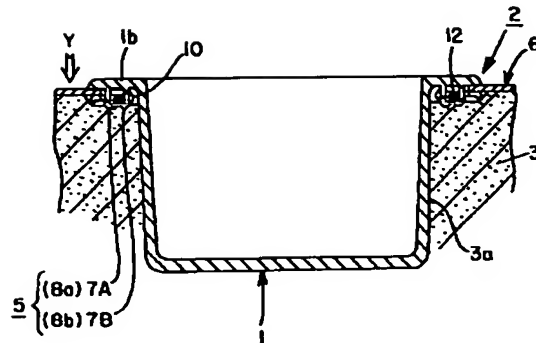


【図5】

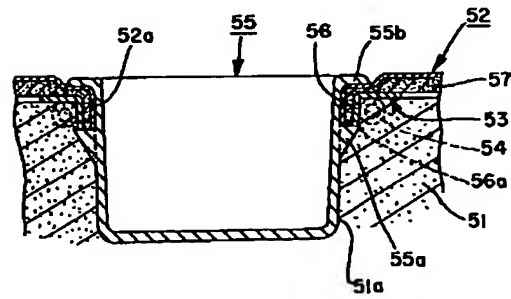


1, 2, 4, 5, 8

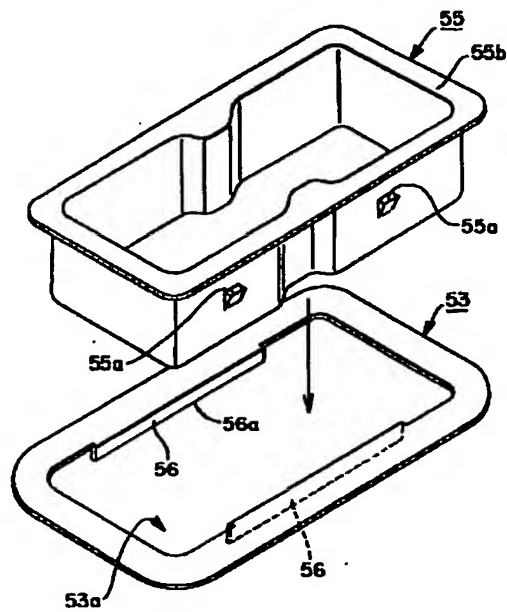
【図4】



【図6】



【図7】



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
 - ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
 - ☐ FADED TEXT OR DRAWING
 - ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
 - ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
-
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
 - ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
 - ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
 - ☒ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
 - ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.